

# 堺人

第3号

## 〈第3号〉内容

- ・堺の医家、医師と半井家
- ・武野紹鷗450回忌
- ・河口慧海の生家跡の探求
- ・梅鉢鉄工所始末記
- ・北十萬「熊野権現降臨地」考
- ・堺の出版人・編集者
- ・わが健康法や「がんと闘う」
- ・美原町と河内鑄造師
- ・漢字の話あれこれ
- ・「父よあなたは…」作詞者



市役所21Fからの「夕陽の明石海峡大橋」

## 堺市が「政令指定都市」に

〈推薦人〉

角山 榮 八木三日女 戸神 繁一  
大澤 徳平 瀬野 とし 田中 和子

〈題 字〉田端 芝蘭

〈写 真〉加藤 保之

〈編 集〉松本多加三

定価1365円  
(本体1300円)

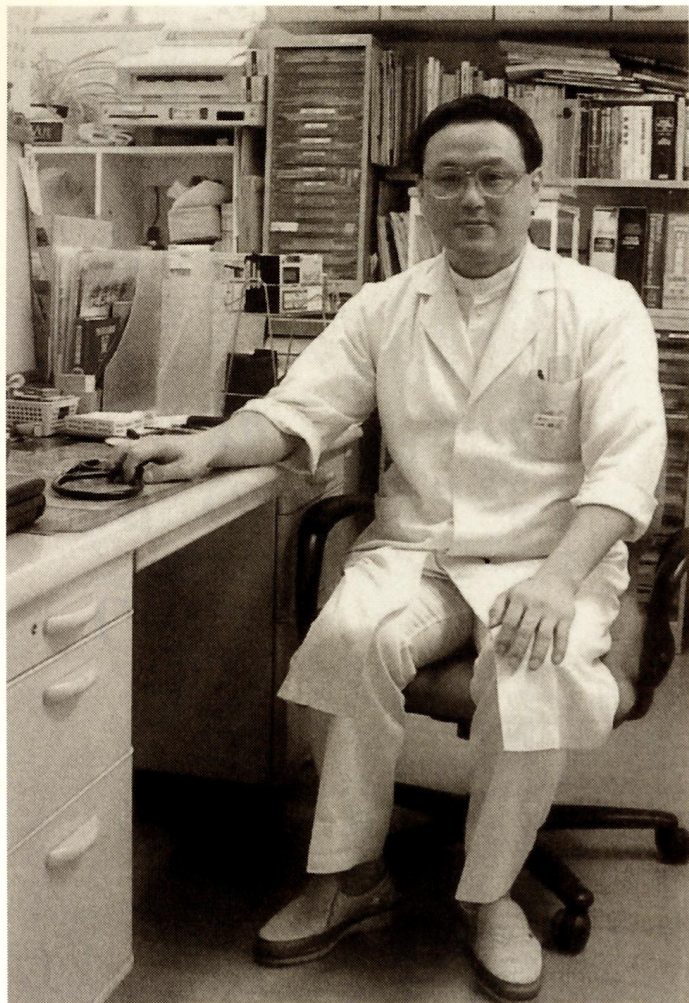
# 梅美木多周辺で超人気の医師

## 患者に最後まで

## 責任を持つ姿勢

## が信頼を呼んで

「いつも患者が多いのに、丁寧で診てくれるので、他の患者に気がねするくらい」と、



嶋田一郎医師

どの患者も口にするのが、梅美木多駅そばの警察署の西側（ツインビル桃山2階）の内科・神経内科の嶋田クリニックで、その院長が嶋田一郎医師。TEL〇七二二九〇一〇七七七。大阪市大の医学部出身で、長野県佐久市の病院で研修医時代を過ごし、麻酔医としての役割や「診察した自分自身があくまでも責任を持つ姿勢」を叩きこまれた後、国立泉北

病院の勤務医となる。

国立泉北病院の神経内科医として10年経った時に、泉北病院が閉鎖され（現在は近大堺病院となっている）それをキッカケに桃山台のツインビルで開業医となったのである。

さて、ゴマすりではなく、シビアに人気の秘密を探ろうと、院内を眺めまわしたり、嶋田医師の様子を観察して2点に気がついた。①実に診察が丁寧で患者との信頼関係が強固であること、②院内報「こころ」の発行で嶋田医師の姿勢や看護師さんの気持ちや患者によく知らされている、という2点であった。

そして、「私の医療の原点は佐久の研修医時代にある」と言いきり、他に転送する医療機関の少ない佐久では、内科以外の患者に接することもあり、麻酔をはじめあらゆる経験を積む中で、一旦自分が担当した患者には最後まで責任を持つ姿勢を叩き込まれたと言う。

嶋田クリニックは、院長と副院長の2診制だが、副院長は奥様の嶋田文子医師。二人そろって患者の信頼を集めているが、あくまでも「地域の方のかかりつけ医」をめざしたいとし、一般内科、神経内科、心身症外来、在宅医療を中心に、肩こり、腰痛、膝痛などの理学診療やペインクリニックも実施。

近所に住む一患者の立場から言えば、「こんなお医者さんが日本中にいたらなあ!」